

適応症により医薬品の 使用方法が異なる際の注意点

平成23年4月 日本薬剤師会

報告事例

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

平成21年 年報(平成22年10月5日公表)より

疑義照会

事例の内容

バルトレックス錠500mg 3錠、毎食後で処方された。患者に話を聞いてみると「带状疱疹」とのことだった。バルトレックス錠は単純疱疹では1回500mgを1日3回服用、带状疱疹では1回1,000mgを1日3回服用のため医師に疑義照会をした。疑義照会により、バルトレックス錠500mg 6錠、毎食後へと変更になった。

報告事例

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

平成21年 年報(平成22年10月5日公表)より

疑義照会

背景・要因

適応症によって異なる分量設定がある薬であった。

薬局が考えた改善策

薬局側でのチェックを充実させる。

その他の事情

特記事項なし。

報告事例

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

平成21年 年報(平成22年10月5日公表)より

疑義照会

事例のポイント

患者からのインタビューが非常に重要である。適応疾患によって用法、用量が異なる薬剤のチェックが必要である。

添付文書では、バルトレックス錠500mgの用法・用量は、**単純疱疹**：通常、成人はバラシクロビルとして1回500mgを1日2回経口投与する。

带状疱疹：通常、成人はバラシクロビルとして1回1,000mgを1日3回経口投与する。

性器ヘルペスの再発抑制や水痘などもそれぞれ用法、用量が異なるため、注意する必要がある。

適応症により医薬品の 使用方法が異なる際の注意点

1. 適応症によって用法・用量等が異なる医薬品が有ることを意識する。
2. 患者が必要以上の量を服用してしまう可能性や必要な量を服用できない可能性があるので注意する。
3. 患者インタビュー・薬歴等により投与量等が適切であるか確認した上で調剤する。